

# 北海道だからこそその、

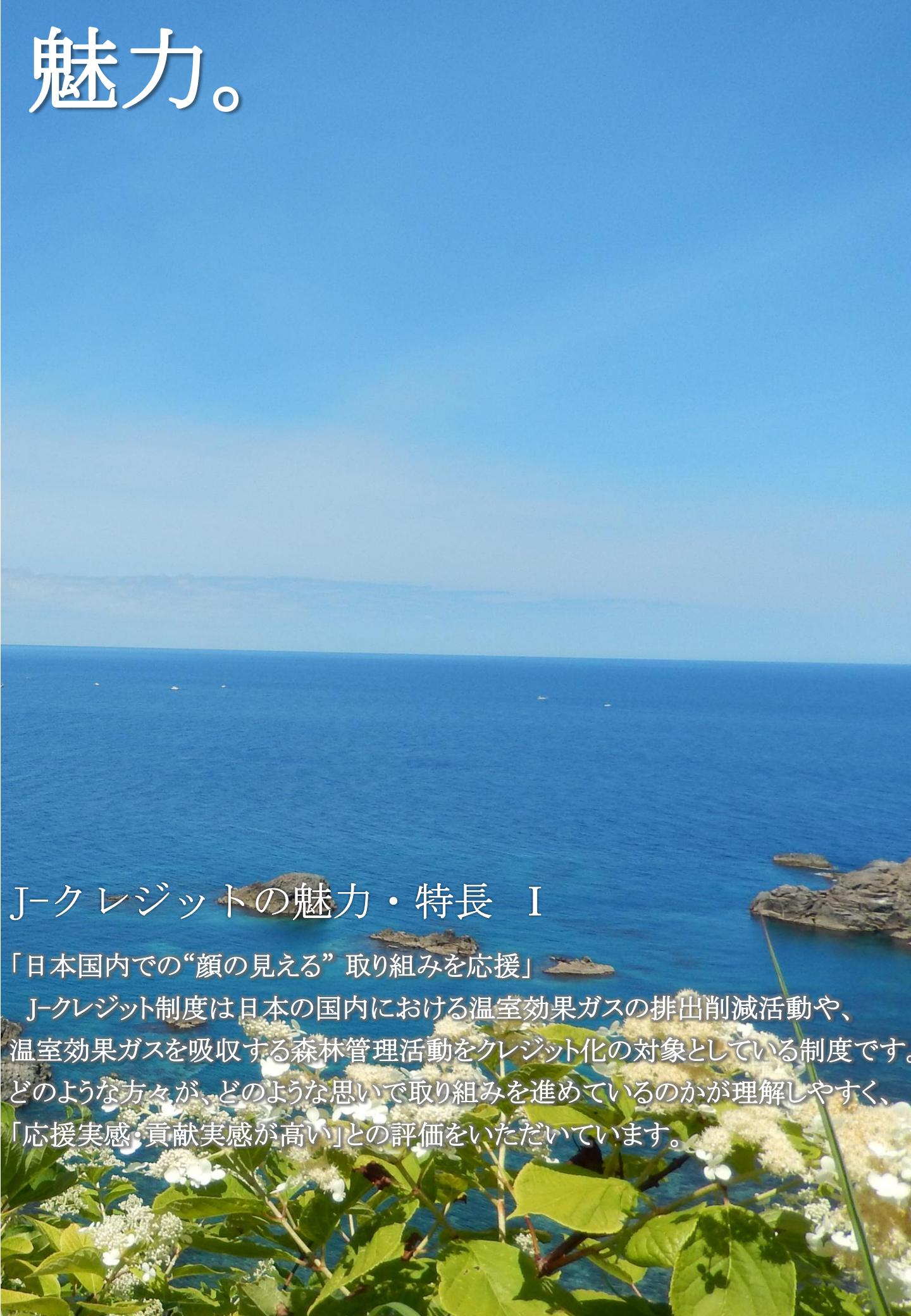
大自然に囲まれた北海道だからこそ、生み出すことが出来る  
数多くのJ-VERやJ-クレジット。

その一つひとつに、地域の自然を守りたいという思いが込められ、  
人と人とをつなげています。

そんな魅力的な北海道産クレジット の数々をご紹介します。



# 魅力。



## J-クレジットの魅力・特長 I

「日本国内での“顔の見える”取り組みを応援」

J-クレジット制度は日本の国内における温室効果ガスの排出削減活動や、温室効果ガスを吸収する森林管理活動をクレジット化の対象としている制度です。どのような方が、どのような思いで取り組みを進めているのかが理解しやすく、「応援実感・貢献実感が高い」との評価をいただいています。

# 森林吸収系

J-VER  
吸収

## 北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会 ～北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業～

登録番号:JVR0002

「森林バイオマス吸収量活用推進協議会」は、北海道の4町(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)で構成し、共通の地域資源である森林を適切に管理し、森林の健全化を確保しながら、二酸化炭素吸収量の増大を目指しています。

本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組みの展開を進めています。

プロジェクトの実施場所	北海道足寄町、下川町、滝上町、美幌町
吸収量	(2008.4～2013.3) 26,811 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	22,276 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組みを進めております。

本プロジェクトにより、適正な管理による森林保全はもとより、地域の活性化、自然環境の再生、更なる低炭素社会の構築など多岐にわたる取り組みの展開を行っていきます。

こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。



足寄町有林



下川町有林



滝上町有林



美幌町有林



- ・適正な森林管理による二酸化炭素吸収量の増大
- ・持続可能な森林経営の実現
- ・地域の活性化

### ■担当者連絡先

樋口 知志 TEL:01655-4-2511

EMAIL:syoukou@town.shimokawa.hokkaido.jp

URL:<http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/>

## 流氷の森クレジット～紋別市有林間伐促進型森づくり事業～

「流氷の森クレジット」と命名された紋別市の森林クレジットは、森から海へ連環する林業・農業・水産業、地域産業全体の活性化に繋げるため、『環境と交流のまちづくりパートナーズ協定』締結を視野に入れ、地球温暖化対策として取り組む都市部企業・自治体にクレジットを活用して貰うことで、人とひとの交流を拡げ、山村と都市との社会的連携を図っていきたいと考えております。

プロジェクトの実施場所	北海道紋別市
吸収量(予測)	年間 1,001 t-CO2
在庫量	3,220 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円以上

## 流氷の森クレジットとは

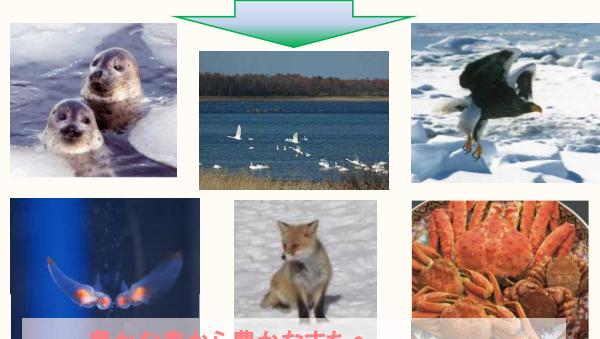
紋別市が所有する200haの市有林において、間伐を実施し整備することによって、健全な森林育成を図るとともに、市有林でのCO2吸収の量を維持することで生まれたクレジットです。

地球温暖化の影響によりオホーツク海の流氷は年々減少化傾向にあり、海洋環境や動植物への影響が心配されているほか、オホーツク海屈指の漁業や観光などへの影響も危惧されているところです。

オホーツクの流氷を守るためにも、本プロジェクトにおける森林整備は大きな意味を持っています。

## 購入者に提供可能なサービス等

購入者との連携による事業の展開 等  
(購入者と要相談)



## ■担当者連絡先

紋別市役所産業部農政林務課 担当:野村 TEL:0158-24-2111  
マイクライメイトジャパン株式会社 担当:南、平野 TEL:03-6228-3616  
HP: <http://www.mombetsu.jp/> <http://www.myclimate.jp>

## 三井物産フォレスト株式会社

## 「三井物産の森」北海道 間伐促進吸収プロジェクト

三井物産フォレスト(株)がプロジェクト代表事業者として、三井物産(株)社有林、沙流山林及び初山別山林の山林経営において、適切な森林管理を行う一環で間伐を促進し、CO2吸収量の増大を図ります。

プロジェクトの実施場所	北海道平取町及び初山別村
吸収量(予測)	年間 2,122t-CO2
在庫量	5,684 t-CO2(認証番号0044001) 5,857 t-CO2(認証番号0044002) (2014年12月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

三井物産フォレスト(株)がプロジェクト代表事業者として、三井物産(株)社有林、沙流山林及び初山別山林の山林経営において、適切な森林管理を行う一環で間伐を促進し、CO2吸収量の増大を図ります。

沙流山林におきましては、保有後100年が経過し、林業を通じて森林の整備、木材の生産を行ってきました。

クレジットをご購入いただくと、引き続き森林の整備(間伐等)にそれを役立てます。

適切な保育を行うことで健全な森林となり、水源の涵養や山地災害の防止はもちろん、生物多様性の保全など、森林の持つ多面的機能を高度発揮することに繋がり、更なる林業の活性化に貢献することができます。

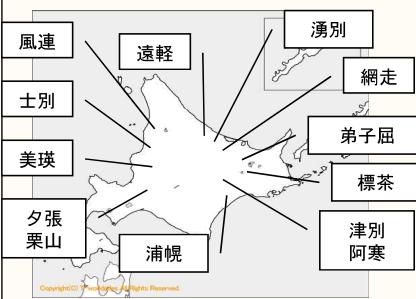


■担当者連絡先:吉田正樹 TEL:03-3281-1701  
EMAIL:m.yoshida@mitsui-forest.co.jp

王子グループは、日本全国に広がる700ヶ所、19万haの社有林(民間最大)を、維持・管理しています。木を伐り、次世代の木を育てていくことで、二酸化炭素の吸収促進につなげています。

プロジェクトの実施場所	北海道
吸收量	2010年度 3596 t-CO2(発行済) 2011年度 10,969 t-CO2(発行済)
在庫量	14,000 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	-

当プロジェクトは、道東、道央、道北に位置する遠軽、湧別、網走、弟子屈、標茶、津別、阿寒、浦幌、夕張、栗山、美瑛、風連、標津地域の山林が対象となっています。各山林は主にトドマツ、カラマツで構成されており、場所によっては林道からエゾフクロウなど希少な動物に出会うこともあります。



カラマツ林

担当者連絡先:  
王子グリーンリソース株式会社 資源環境ビジネス本部  
担当:千葉 tel:03-3563-4392

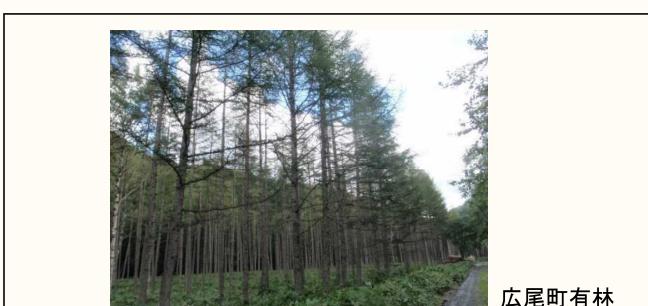
## 北海道広尾町

～北海道広尾町有林における森林吸収プロジェクト～

登録番号:JVR0052

広尾町は、北海道十勝管内の最南端に位置し、東は北海道有数の漁業資源を有する太平洋、西は日高山脈の山並みがそびえ立ち、その山系に源を持つ4本の河川が海に注ぎ、豊かな自然を生かした漁業を中心に農林業を基幹産業として発展してきました。このように産業と密接に関わる広尾町の自然を維持するためにも森林整備は大きな意味を持っています。広尾町町有林の内、07年度～12年度の間に間伐が実施される約200haの町有林(カラマツ・トドマツ・ストローブマツ)をプロジェクトの対象地とし、安定的・持続的に二酸化炭素を吸収する森づくりをおこなっています。

プロジェクトの実施場所	広尾町有林
吸收量(予測)	年間 956 t-CO2
在庫量	1,925 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円



広尾町有林



サンタランド

広尾町

広尾町はノルウェー・オスロ市から国外で唯一「サンタランド」として認定されています。サンタランドは、「愛と平和 感謝と奉仕」の理念を多くの皆さんに発信しており、大型商業施設へのクリスマスツリーの提供や、サンタメールなど多種多様な取組みを行っています。サンタの森づくりプロジェクトによるクレジットを使用することで、サンタクロースとクリスマスという、夢と心のぬくもりをイメージできるキーワードとならないでしょうか。このキーワードを利用することで、CSR、企業イメージの向上に役立てることと思います。

■担当者連絡先  
水産商工観光課サンタランド係 沖田一美  
TEL: 01558-2-0177  
EMAIL: s-shokokanko@town.hidemoto.lg.jp

## 上士幌町間伐促進プロジェクト（次世代に引き継ぐ豊かな森林づくりプロジェクト）

本町は、北海道の十勝平野北部、大雪山国立公園の東山麓に位置し、総面積695.87km<sup>2</sup>のうち76%が森林です。この東大雪の山々を水源とする音更川は、町の中央部を流れ、緑豊かな森林や大地そして多くの動植物を育み、美しい四季と雄大な自然をもたらしています。この自然環境を次世代に引き継ぐために、平成16年12月に「上士幌町環境基本条例」を制定しました。また、平成18年12月には「上士幌町環境基本計画」を策定し、この中で、地域として地球環境の保全に貢献することとし、CO2の貯蔵・吸収源としての森林の維持・整備の推進を明記しています。

町民の財産である町有林で適時適切な間伐を実施し、本制度に取り組むことで、地球温暖化対策への貢献、次世代に引き継ぐ良好な自然環境の保全、森林の公益的機能の維持・増進、地域林業の活性化等を図ります。

プロジェクトの実施場所	北海道河東郡上士幌町
吸収量	計 2,277t-CO2(2008~2014年発行)
在庫量	2,127 t-CO2(2015年1月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円

森林の間伐・整備により、森林環境が保全されます。クレジット購入による資金は、既存の森林を保全するだけではなく、新たな森林を生むことに努め、また、森林や河川をはじめとする自然環境を次世代に引き継ぐための環境配慮型事業や環境学習などを実施します。

森林を守ること、次世代の健康や笑顔を守ることは、企業にとって、イメージの向上、社会貢献につながるものと考えています。

■担当者連絡先  
北海道上士幌町企画財政課企画担当 TEL:01564-2-2111  
EMAIL:kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp



## 津別町

北海道津別町による町有林内における間伐促進を図りながらの森林CO2の吸収促進事業

本町は、北海道の東部オホーツク総合振興局管内の内陸部に位置し、総面積716.60km<sup>2</sup>のうち約86%が森林です。

昭和57年、日本で初めて「愛林のまち」を宣言しました。それは、日本林業の発展を願って森林資源の持続的な保全・活用を目指す誓いになります。町が保有する1,360haの森林は、全てSGEC森林認証を取得し、持続可能な森林管理を通じて、自然環境の保全を図りながら、地域における循環型社会の形成を目指しています。

本プロジェクトの主たる目的は北海道津別町有林において実施される森林施業によって、健全な森林育成を図るとともに、持続的なCO2吸収の量を維持していくことです。

さらに、森林吸収量をクレジットとして売却し、得られた資金を森林の管理費用とし、地域活性化にも活用します。

プロジェクトの実施場所	北海道網走郡津別町
吸収量(予測)	2008年4月～2013年3月 4,693 t-CO2(発行済)
在庫量	3,442 t-CO2(2015年1月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円(税別)



J-VER対象カラマツ人工林



森林づくり体験 候補地

林業体験(植樹)風景

## PRポイント

本町では、認証を受けたオフセット・クレジット(J-VER)の販売を通じて、道内外の企業や団体等の皆様と協同した森林づくりに取り組み、豊かな森林の育成に励むことから、CSR活動や企業イメージの向上に貢献できると考えています。

H26年度からは、本町の森林づくりへの貢献に敬意を表し、購入者へ「感謝状」を贈呈しています。

## 購入者に提供可能なサービス等

- 森林づくり体験(植樹・育樹等の林業体験) ※体験場所を用意
- 触れ合う～森林セラピー、クリンソウ群生地、木工体験等
- 自然感動～津別峠(雲海)、チミケップ湖、ミスナラの巨木等
- 癒し～天然温泉(ラムの宿森つべつ)、チミケップホテル等
- エコ見学～木質ペレット製造施設、堆肥製造施設等

■担当者連絡先:津別町役場

産業振興課再生可能エネルギー推進グループ

兼平 昌明 TEL 0152-76-2151

E-Mail:kanehira-masaaki@town.tsubetsu.lg.jp

本プロジェクトの目的は社有林において間伐・下刈り等により、健全な森林育成を図るとともに、温室効果ガスの更なる吸収を図ること。また、森林吸収量をクレジットとして売買することで得られた資金を活用し、更なる森林育成活動に取り組むことです。

浦河町は山と海に隣接している地域であり、農業はもとより漁業が盛んな地域です。魚類・貝類、そして『日高昆布』でも知られている昆布の産地です。弊社社有林もこうした地形のなかにあります。社有林では主にシラカンバ・トドマツを育成しております。間伐を中心とした森林整備を適切に行うことで、持続可能な森林吸収量を確保します。

プロジェクトを進めることにより、山の保水性を高め、森・川・海の健全な繋がりを保つことで豊かな海を作ることに寄与します。

プロジェクトの実施場所	北海道浦河郡浦河町
吸収量	2008年4月～2011年1月 943 t-CO <sub>2</sub> (認証済) 2013年度 693 t-CO <sub>2</sub> (認証済)
在庫量	1,499 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月時点)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	—



弊社グループは昭和三年創業で、創業当時は林業(造材)を中心に活動しておりました。現在では港湾土木、一般土木、生コンクリート製造業、木工業を主体に地域に根ざした企業活動しておりますが、本業である建設業・製造業において環境配慮は大きな命題であり、工場及び工事現場から排出されるCO<sub>2</sub>はなかなか抑制することが出来ないのが現実です。そこで弊社グループ全体で思案した結果、国家的課題である地球温暖化対策として『森林づくり活動による二酸化炭素吸収』に取組むことを決定しました。



■担当者連絡先  
管理課 成田 悟  
TEL: 0146-36-2311 EMAIL:narita@minamigumi.co.jp

カーボンオフセットで活用されるJ-VERクレジットを、北海道知床半島への入り口にあたる標津町の森林管理から産み出しました。標津町の農地を守る防風林や、サケのふるさとの川を守る河畔林などの森林を、健全に育成するために標津町・標津町森林組合が実施した間伐事業から得られた森林によるCO<sub>2</sub>吸収クレジットです。

本プロジェクトは環境省オフセット・クレジット(J-VER)の森林経営活動によるCO<sub>2</sub>吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)となります。町有防風林であるカラマツ、アカエゾマツ、トドマツ人工林で、2007年～2009年に間伐を行った135haにおけるCO<sub>2</sub>吸収量の増大について、J-VERクレジット発行を行いました。皆様の環境CSRのツールとして、本J-VERクレジットの活用をご検討下さい。

プロジェクトの実施場所	北海道標津郡標津町
吸収量(予測)	—
在庫量	1,266 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月時点)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	16,200 円～



## 2 購入者に提供可能なサービス

今回のクレジット(J-VER)販売で得られた資金は、サケのふるさとの森林(知床の森)の間伐や植栽経費として使わせていただきます。このようにサケのふるさとの森林の維持・造成に使用することで、CSR,企業イメージの向上にお役に立てると考えます。

またプロジェクト実施地等において、植林体験や間伐体験など購入者の皆様の社員研修の場として利用していただくことができます。



サケのふるさとの防風林と知床連山の山並み



町民との協働の植樹祭



大学との連携した調査事業

### 1 標津町の森林づくりの特徴

標津町は、北海道大学農学研究院との連携協定締結など研究機関と連携して調査事業を展開し、それに基づく独自の森林管理計画を持つ、全国でも数少ない先進自治体です。

また、平成24年6月からは根釧東部管理署と保全協定を締結し防風林や河畔林等の連携した整備と保全にも取り組んでいます。

標津町は、北部に世界遺産指定された知床連山の山並み、中央部には北海道遺産に指定された「根釧台地の格子状防風林」と豊かな自然環境に恵まれ、全国有数の水揚げを誇るサケのふるさとの町です。防風林の育成は、防風機能を高め町民の生活や農地を守るとともに、ヒグマの移動の場や野鳥の棲家など野生動物保護にもつながります。また防風林は河畔林機能も有し、サケのふるさとの森林として河川環境、サケやそれらを取り巻く生態系を守る生物多様性保全へつながります。

■担当者連絡先: 北海道標津町 加藤

TEL: 0153-82-2131 EMAIL: shinrinkumiai@shibetsutown.jp

## ニッタ株式会社豊頃町間伐促進プロジェクト

ニッタ株式会社は、1906年に北海道十勝地方に進出し、以来100年以上にわたり、植林・間伐等の森林整備事業を行ってまいりました。現在、約6,700haの山林を保有し、森林の整備及び維持管理を行っていますが、木材市況の低迷等から施業は十分とはいえない状態です。本プロジェクトにより、自然と人との共存を目指し、豊かな大地、水と緑を次世代に残すため、温室効果ガスの更なる吸収を図ります。

プロジェクトの実施場所	北海道中川郡
吸収量(予測)	2008年 632 t-CO2 2009年 1,264 t-CO2 2010年 2,012 t-CO2 2011年 1,971 t-CO2 2012年 1,892 t-CO2
在庫量	4,471 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	3,000 ~ 10,000 円



## 現在から将来に伝えるべき、森林の価値

ニッタが、十勝の森林と出会って100年。ニッタは、森林の持つ貴重な価値を、将来に引き継いでいくよう取り組んでいます。

森林の持つ公益的機能には、温室効果ガスの吸収だけではなく、水源かん養・土砂流出防止・保健休養・生物多様性保全など様々な機能があります。

今回創出されるクレジットをご活用いただくことは、これらの機能を更に向上させることにつながります。



## ■担当者連絡先

ニッタ株式会社 経営管理グループ 懸上(カケガミ)  
TEL: 06-6563-1217 EMAIL: CSR@nitta.co.jp

## 北海道河東郡士幌町

## ～士幌町有林間伐促進による森林づくりプロジェクト～

本町は、広大な十勝平野の北部、大雪山国立公園の東山麓に位置し、総面積259.13km<sup>2</sup>のうち約21%が森林です。先人たちが幾多の山火事からまもり育ててきた東ヌプカウシヌプリ、その山麓に広がる士幌高原を有し、音更川、士幌川、居辺川が緑豊かな大地を流れています。この自然環境を次世代に引き継ぐために、平成19年3月に「士幌町環境基本条例」を制定し、条例で定めた基本理念を実現するために、平成21年3月に「士幌町環境基本計画」を策定しました。また、さらに環境に対する取り組みをより積極的に発展させていくことを目的とした、「士幌町環境宣言」を策定しました。

町の貴重な財産である町有林で適時適切な間伐を実施し、本制度に取り組むことで、森林の公益的機能の維持・増進、地域林業の活性化、地球温暖化対策への貢献、次代を担う子どもたちへの豊かな自然環境の引継ぎ等を図るものであります。

プロジェクトの実施場所	北海道河東郡士幌町
吸収量(予測)	1,397 t-CO2 (発行済) (内バッファー一分 41 t-CO2)
在庫量	1,356 t-CO2(2015年3月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円(税抜)

北海道十勝地方は、日本でも有数のカラマツ生産地であり、とりわけ士幌町においても、人工林の約9割をカラマツが占めています。

町の貴重な財産であるカラマツを、地域の計画に即して継続的に間伐等を実施することは、「森林の公益的機能の維持・増進」、「地球温暖化防止の対策」、「次代を担う子どもたちへの豊かな自然環境の引継ぎ」に貢献しています。

その間伐によるCO2吸収量をオフセットに利用いただければ、CSR、企業イメージの向上に役立てていただけるものと自負しております。

次のサイクルを徹底することにより、豊かな森林づくりを推進しています。



## ■担当者連絡先

産業振興課 産業振興G 林務担当  
TEL: 01564-5-5213  
E-MAIL:sansingroup1@shihoro.jp

北海道のほぼ中心に位置する南富良野町は、北海道の母なる川の一水系がここから生まれる、森林地帯に囲まれた風土の中になります。歴史的にみて林業で栄えた町です。このプロジェクトは、適切な森林整備事業を行うことで吸収されるCO2由来のカーボンオフセット料金を、地域の持続的な森林整備事業にフィードバックすることで、さらなるCO2吸収効果を地域の森林資源に付与します。

プロジェクトの実施場所	南富良野町
吸収量(予測)	年間 458 t-CO2
在庫量	1,564t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円(税抜)

豊かな森林資源を有する南富良野町では、地域の森林生態系サービスを賢明に利活用することが、地域コミュニティーの持続に資するという考えを基に『山づくりは町づくり』というコンセプトを掲げています。森林生態系サービスにはCO2の吸収もありますが、南富良野町ではそれだけではありません。地域の自然史には日本最大の淡水魚であるイトウや、最大の陸棲哺乳類であるヒグマ、世界最大のフクロウ:シマフクロウが生息する環境があり、アウトドア観光も盛んです。このプロジェクトは南富良野町の豊な自然環境を背景にした森林産業『協奏曲』のひとつのパートであり、クレジット購入者にとってのベネフィットはCO2排出量の削減に留まりません。南富良野町との繋がりを持って頂くことで、地球環境への想像力を刺激する潜在力を秘めています。



### 『南富良野はカーボンオフセットと想像力』

■担当者連絡先: 南富良野町役場 産業課課長補佐 小室  
TEL: 0167-52-2178  
EMAIL: komuro@town.minamifurano.hokkaido.jp

## 株式会社サン・クロレラ

釧路湿原におけるサン・クロレラ社有シラカバ林の森林吸収プロジェクト

株式会社サン・クロレラが特別協賛を務めるゴルフトーナメント「サン・クロレラクラシック(2011年7月28日～31日)」において、大会運営で排出されたCO2のカーボン・オフセットをいたしました。本取組では、運営者の移動、会場で使用する電力、廃棄物運搬、廃棄物処理などから排出されるCO2排出量をカーボン・オフセットの範囲とし、サン・クロレラが所有・管理する北海道釧路のシラカバの森の間伐プロジェクトによって創出したCO2排出権を使用。また、本取組は環境省基準によるカーボン・オフセット認証を取得しました。

プロジェクトの実施場所	北海道釧路郡釧路町
吸収量(予測)	330 t-CO2/年
在庫量	251 t-CO2(2015年1月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

### プロジェクト概要

#### 【目的】

サン・クロレラでは、地球と日本の環境を守り、未来の子どもたちに引き継いでいくため、気候変動キャンペーン“Fun to Share”に賛同し、CO2などの温室効果ガス削減に向けた具体的な行動を全社的に取り組んでいます。

#### 【内容】

北海道釧路湿原を一望する土地でシラカバの森を育て、間伐をして適正に森の健康を管理し、温室効果ガスの吸収率を継続的に増大させる取組を行なっております。この森の間伐プロジェクトによって創出予定のCO2排出権を使用して2011年、2012年のサン・クロレラクラシックゴルフトーナメントにおいてカーボン・オフセットを行ないました。



■ 担当者連絡先 (株)サン・クロレラ 総務部 倉持  
TEL075-288-3000 m-kuramochi@sunchlorella.co.jp

サブテーマ：～ニシンが群来(くき)る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり～

間伐により新たに発生する二酸化炭素量を、クレジット化し販売することで、森林施業経費財源を確保し、継続した森林整備を行なうとしています。一方海岸ではニシンの群来(産卵)も確認出来るようになったことから、豊かな森林等を造成することで、藻場となる豊かな海岸環境の維持拡大を図り、地域の活性化を図ろうとしているものであります。

プロジェクトの実施場所	北海道石狩市内一円
吸収量(予測)	年間 530 t-CO2
在庫量	1,496 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,800 円



豊かな森林が海岸の崖まで続く石狩湾北部の沿岸は、かつてニシンにより大いに繁栄しましたが、昭和29年を境にその姿を消し、幻の魚となりました。しかし、近年ニシンが少しづつ浜に戻り、一部では「群来(くき)」(産卵)が見られるようになりました。群来(くき)に欠かせない、豊かな藻場を育てるためには、森林を育て落ち葉などの有機物が海に流れ込む環境作りが大切で、これまで取り組んで来た間伐など多くの施業が実ったものと考えています。

企業活動などから排出されるCO2の埋め合わせに、当市のクレジットを使用することは、森林の整備にとどまることなく、森林・河川・海という広範にわたる環境改善に貢献することとなり、これまでの森林吸収系クレジットとは一味違った企業イメージの向上に役立てることが出来るのではないかでしょうか。

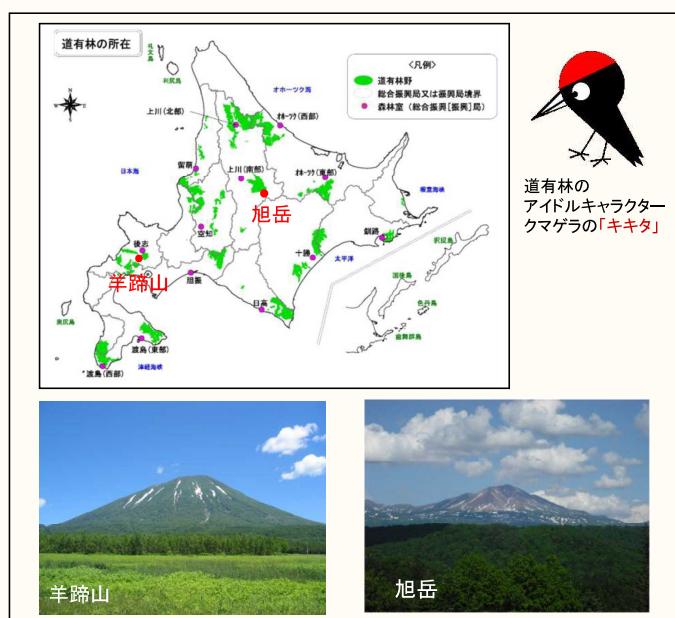
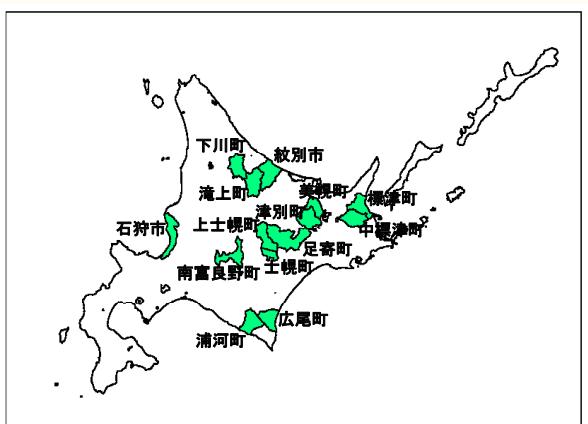
クレジット購入者は、石狩市クレジットのロゴマークを一定期間使用することが出来ます。

■担当者連絡先：  
環境市民部環境政策課環境政策担当 鍋谷、佐々木  
TEL:0133-72-3698 EMAIL:seisaku@city.ishikari.hokkaido.jp

「キキタの森」の間伐促進プロジェクトは、羊蹄山周辺と旭岳周辺の道有林にあるトドマツやアカエゾマツ人工林の二酸化炭素吸収量のうち、J-クレジットの認証を受けた発行クレジットを環境活動に取り組む企業や団体等に販売し、北海道の森林づくりに活かす取組です。

プロジェクトの実施場所	羊蹄山及び旭岳周辺の道有林
吸収量(予測)	年間 2,722 t-CO2
在庫量	4,048t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	15,000 円(税抜)

道有林クレジットは、地域と連携した森林づくりを進めため、原則として道内14の市町村が保有する森林吸収系クレジットと同時に販売しています。(販売割合:1/2ずつ)



■担当者連絡先  
北海道水産林務部森林環境局道有林課道有林管理グループ  
TEL: 011-204-5519  
EMAIL:suirin.doyurinkg@pref.hokkaido.lg.jp

本プロジェクトは、北海道勇払郡むかわ町穂別を実施サイトとし、カラマツの間伐及び広葉樹林の間伐(広葉樹改良)を行なうことにより森林の吸収量を高め、魅力ある森林整備を行なうものです。

プロジェクトの実施場所	北海道勇払郡むかわ町穂別
吸収量(予測)	年間 395 t-CO2
在庫量	1,940 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	6,500 円

かたばみ興業は、日本各地で約7000haの森林の管理・施業を行なっている。材価が低迷し従来行なってきた森林施業の継続が難しくなっている中、CO2の吸収増大、生物多様性に適した環境づくり、森林体験や癒しなどの環境価値を創造・活用するような森林施業を目指しています。

本プロジェクトは、温室効果ガスの吸収力を高めることはもとより、北海道の生物多様性などにも寄与する美しい森づくりを行うとともに、現地での雇用の維持にも貢献するものです。



## ■担当者連絡先

馬場 TEL: 03-5413-8111  
EMAIL:baba@katabami.co.jp

## 国立大学法人 東京大学

東京大学北海道演習林間伐推進プロジェクト（東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト）

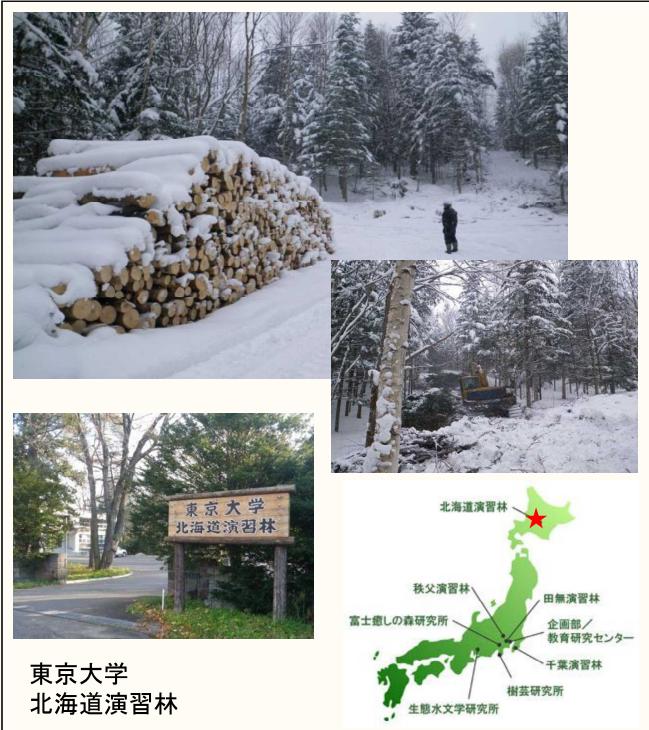
東京大学は自らの行動によって、サステイナブルな社会の実現に向けた道筋を作りたいと考え「東大サステイナブルキャンパス(TSCP)」を全学プロジェクトとして立ち上げています。活動の一環として、大学が保有する演習林での間伐推進プロジェクトを進めています。

プロジェクトの実施場所	東京大学 北海道演習林
吸収量(予測)	年間 192 t-CO2
在庫量	現在のところ販売予定はございません。
1t-CO2あたりの希望単価	

東京大学演習林は、森林・林業の実践的研究・教育の場として全国7ヶ所に合計約32,000haの地方演習林を擁している他、森林生態圈管理学協力大講座として大学院学生の指導・教育にもあたっています。

東京大学演習林のうち要件を満たす3演習林と2研究所で、間伐促進型プロジェクトを先導的に進めることで、同様の演習林を保有する国立大学への波及効果を含め、制度全般の普及・拡大に繋げたいと考えています。

千葉演習林での取り組みをパイロットプロジェクトとして申請し、大学演習林として初めて登録されました。順次残りの演習林・研究所のプロジェクト化を進めており、北海道演習林が3番目に登録されました。



東京大学  
北海道演習林

## ■担当者連絡先:迫田一昭

03-5841-0500 sakoda.kazuaki@mail.u-tokyo.ac.jp

世界自然遺産・知床の森は、民有林というコートによって守られています。私たちのプロジェクトは、知床の民有林経営をJ-VERによって活性化することで森林の荒廃を防ぎ、これによって知床世界自然遺産の保全、知床地域全体の低炭素化をすすめるものです。

プロジェクトの実施場所	北海道斜里町
吸収量(予測)	年間 606 t-CO2
在庫量	2,087 t-CO2(2015年3月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	要相談



世界自然遺産の森と地続きになった民有林の荒廃は、自然遺産にも影響を及ぼしかねません。知床半島の民有林の多くは、開拓時代以来このまちに住む地域住民の所有するものですが、その森林経営は厳しく、多くが身銭を切って森を維持しているのが実情で、厳しさのあまり森林放棄などの例も少なくありません。

こうした中、森林経営の活性によって知床の森を守りたいと、知床の森林所有者自らが立ち上がりました。現在、ほとんどのJ-VERプロジェクトが市町村林、企業林のプロジェクトになっている中で、知床在住の森林所有者有志が集まり、組織した唯一の森林オーナーによるプロジェクトです。J-VERを通して広く都市との交流を求めていきます。

## 北海道浦河町

北海道浦河町有林間伐促進吸収プロジェクト～優駿を育む森づくり～

浦河町は、北海道日高振興局管内南部に位置し、雄大な日高山脈を背に広大な太平洋に面し、海洋性気候の影響で夏は涼しく、冬は温暖なため、豊かで住みよい自然環境に恵まれています。この気候と豊かな自然環境を活用し、サラブレッド(競走馬)の生産・育成が盛んに行われ、五冠馬シンザンをはじめ幾多の名馬を輩出しています。

豊かな自然環境を維持するためには、本町の総面積の約80%を占める森林の経営活動を活発に行う必要があります。

このため、J-クレジット制度を活用し、浦河町有林の持続的な管理・経営の推進により、森林のもつてている様々な公益的機能を総合的かつ高度に發揮し、豊かな自然環境を守るとともに、優れたサラブレッド(優駿)の生産・育成を図ります。

プロジェクトの実施場所	浦河町有林
吸収量(予測)	年間 520 t-CO2
在庫量	1,741 t-CO2(2015年4月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,800 円

数多くの名馬を輩出した「優駿の里」浦河町。  
競馬には、夢とロマンがあふれています。  
主役である競走馬の生産・育成には豊かな自然が必要です。  
また、競走馬だけではなく、サケや昆布などの水産物、夏イチゴなどの農産物も森林の持っている様々な公益的機能による豊かな自然環境からの贈り物と思っています。  
今回、取得したクレジットをご利用いただき、浦河町とともに環境を守り育てていきませんか。



■担当者連絡先 浦河町農林課 柳谷 健一  
TEL: 0146-26-9017  
EMAIL:nourin@town.urakawa.hokkaido.jp

本プロジェクトは、北海道尺別地区の山林を実施サイトとし、カラマツ・トドマツの間伐及び広葉樹林の間伐(広葉樹改良)を行うことにより森林の吸収量を高め、魅力ある森林整備を行うものです。

プロジェクトの実施場所	北海道釧路市音別町
吸収量(予測)	年間 約 600 t-CO2
在庫量	3,318 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	6,500 円



かたばみ興業は創業以来、山林の保全・維持管理を行ふことで美しい森の持続的利用に努めてきました。国内の山林荒廃が問題となる昨今、緑の保続という使命を誠実に果たし、次の世代に繋ぐ、「100年の森づくり」を進めています。現在かたばみ興業が管理する山林は、13道県、約7,000ヘクタールにまで広がっています。

尺別の森では、一般向けの林業基礎講座を開催しています。枝打ちや苗植えなどを専門家の指導の下で体験することにより、林業のしごとを肌で感じ、森林が果たしている大きな役割を考える場を提供します。

#### ■担当者連絡先

馬場 TEL: 03-5413-8111  
EMAIL:baba@katabami.co.jp

## 北海道中標津町

地域のくらしを守る格子状防風林における間伐促進プロジェクト

#### ～持続可能な循環型社会 環境首都なかしべつを目指して～

中標津町の生活道路と農地を守る格子状防風林の適切な間伐の実施によって森林の健全育成を図り、森林のCO2吸収量を高め、地球温暖化防止に寄与します。また、知床世界自然遺産に近隣する地域として、ヒグマやシマフクロウなどの希少野生生物の生息環境保全を図ることで、生物多様性の維持にも寄与することを目的としています。

プロジェクトの実施場所	北海道標津郡中標津町
吸収量(予測)	年間 672 t-CO2
在庫量	572 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	10,000 円(消費税別)

中標津町は北海道東部の根室地域に位置する酪農業を主産業とする町です。中標津空港を有することで知床世界自然遺産観光の玄関ともなっており、地域の交通の要所となっています。

本プロジェクトの対象である中標津町有林は、根釧台地に広がる農地を守る格子状防風林(北海道遺産に認定)の一部を形成し、地域の産業を守る森林であり、また生活道路を守る防風林もあります。格子状防風林は、暴風雪災害の生活道路に対する影響を緩和する上で欠かせない地域のインフラです。

また、スペースシャトルからもハッキリと確認できる事で知られる格子状防風林は、森林が持つ多面的機能の発揮のみならず、グレート・グリーン・グリット(3G)【偉大なる緑の格子】として、地域に存在し続け、都市部と農村部の緩衝帯(バッファーゾーン)としても重要な役割を果たしています。中標津町は適切な都市規模としてコンパクトな街づくりを進め、環境負荷の少ない持続可能な循環型社会を目指しています。

本町ではクレジット販売で得られた資金を、更なる間伐や植栽費用として有効利用し、森林整備を加速化します。そして、格子状防風林を初めとする地域森林の維持・更新が、生物多様性や地球環境の改善に繋がると考えています。平成25年度より新制度として生まれ変わった『J-クレジット制度』において、森林経営活動【方法論】としては全国初となる本町のクレジットの活用をご検討下さい。



町花 エゾリンドウ



北海道遺産【根釧台地の格子状防風林】



シマフクロウ



■担当者連絡先 中標津町経済部農林課林務係  
TEL: 0153-73-3111 EMAIL:rinmu@nakashibetsu.jp

リベレステ(株)では新ひだか町に約49ha、様似町に約160haの社有林を有しております、本事業では、これら社有林において間伐、造林事業を実施して森林を適切に管理することにより、CO<sub>2</sub>の吸収量を増大させることを目的としています。

プロジェクトの実施場所	北海道日高郡新ひだか町及び 様似郡様似町
削減量(予測)	年間 219 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	213t-CO <sub>2</sub> (2015年2月時点)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	15,000 円(税抜)

地球環境問題への関心が益々高まる中、地球温暖化防止に向けて様々な分野での取り組みが活発化しています。地球温暖化はすでに我々の身近な環境問題です。

リベレステ(株)は、「新ひだか町三石歌笛」、「新ひだか町静内西川」、「様似郡様似町」に森林を所有しています。苗、挿穂などの造林材料を林地に定着させて次代の森林をつくり、地球温暖化の防止、水環境の保全、生物多様性の確保に貢献して参ります。

環境貢献に取り組む企業に、このクレジットを販売することにより、新たな森林整備にかかる費用の一部を補っていきます。森づくりに活かされ、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取り組みを進め参ります。



■担当者連絡先 リベレステ株式会社 東京支店 木村  
TEL:03-3242-1849 EMAIL:kimura@riberesute.co.jp

リベレステ株式会社 JASDAQ  
RIBERESUTE #340-0052 埼玉県草加市金明町389番地1

# 排出削減系

J-VER  
削減

## 北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会 ～五味温泉等森林バイオマスエネルギー活動事業～

登録番号:JVR0007

低炭素社会の構築を目指し、下川町内の公共施設の中で最も化石燃料を消費している公共の温泉「五味温泉」に木質ボイラーを導入（北海道初）し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。また、下川町幼児センターにおいて、木質ボイラーを導入することにより、二酸化炭素の削減効果だけでなく、環境に優しい地域の資源で子供たちを育む森林源循環型社会の形成に寄与します。本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めています。

プロジェクトの実施場所	北海道上川郡下川町
削減量	(2008.4～2011.7) 715 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	479 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めています。

本プロジェクトで使用する木質くずは、下川町内製材工場の製材製造工程において発生する端材を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。

### 【下川町の概要】

北海道の北部に位置した農林業を基幹産業とした町です。人口は約3,700人。町の面積の約9割が森林となっており、自然豊かな町です。平成20年(2008年)には、国の「環境モデル都市」として認定を受けており、豊かな森林資源を活用して、低炭素社会構築に向け、様々な取組を行っています。町の代表的なイベントである「アイスキャンドルフェスティバル」では、町中に3,000個のキャンドルが灯り、幻想的な雰囲気を演出しており、町の冬の風物詩となっています。



■担当者連絡先  
樋口 知志 TEL:01655-4-2511  
EMAIL:syoukou@town.shimokawa.hokkaido.jp  
URL:<http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/>

## ～滝上町ホテル渓谷木質バイオマス活用プロジェクト～

滝上町内の森林未利用資源(林地残材)から形成されたチップを燃料とするチップボイラーを、公共施設である「たきのうえホテル渓谷」に導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道紋別郡滝上町
削減量	(2009.2～2010.12) 491 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	352 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。

本プロジェクトで使用する木質くずは、滝上町内で発生する林地残材(追い上げ材など)を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。

## 【滝上町の概要】

北海道東北部に位置し、農林業を基幹産業とした町です。人口は約2,800人で、町の三方が山林に囲まれた自然豊かな町で、町の自然やそこに生きる人々を童話の舞台とらえ、「童話村・たきのうえ」をキヤッチフレーズに町づくりを進めています。



また、町の丘を美しく彩るシバザクラは、広く知られており、満開時には多くの観光客が鑑賞に訪れています。



## ■担当者連絡先

川原田 耕基 TEL: 0158-29-2111

EMAIL: rinsei@town.takinoue.hokkaido.jp

URL: http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

## 北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

## ～足寄町森林バイオマスエネルギー活用事業～

足寄町の森林資源(カラマツ)の未利用資源から形成された木質ペレットを燃料とするペレットボイラーを、役場庁舎及び子どもセンターに導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。

本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道足寄郡足寄町
削減量	(2008.04～2009.12) 997 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	779 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。

本プロジェクトで使用する木質ペレットは、足寄町内におけるカラマツ伐採時に発生する林地残材を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。

## 【足寄町の概要】

北海道東部の内陸部に位置した農業を基幹産業とした町です。人口は約7,900人。

その面積は約1,400km<sup>2</sup>と、2006年1月までは日本一広い面積ありました。現在でも、市を除く町村の中では日本一広い面積となっています。

足寄町の東に位置する螺湾(らわん)地区に自生する「ラワンブキ」は、「日本一大きなフキ」として全国的に有名です。



役場庁舎及び子どもセンターへ熱供給

## ■担当者連絡先

村石 靖 TEL: 0156-25-2141

EMAIL: energy@town.ashoro.hokkaido.jp

URL: http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

美幌町内の森林未利用資源(林地残材)から形成されたチップを燃料とするチップボイラーを、町内公共施設の中で最も化石燃料を消費している公共の温泉「峠の湯びほろ」に導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道網走郡美幌町
削減量	(2011.4~2012.11) 330 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	290 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。

本プロジェクトで使用する木質くずは、美幌町内で発生する林地残材を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。

こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。

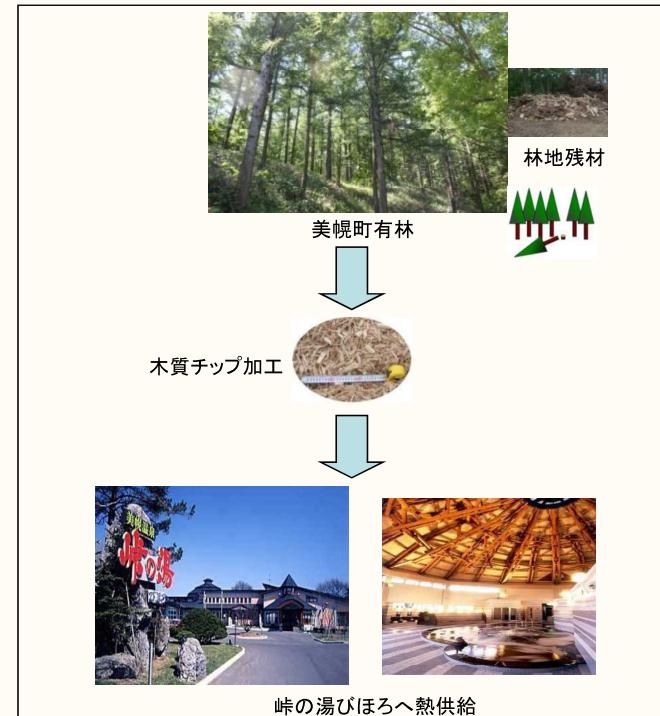
#### 【美幌町の概要】

北海道東部に位置し、農業を基幹産業とした町です。人口は21,000人。



町域の大半は、緩かな傾斜地または平坦地で、険しい山ではなく、豊かな森林資源を有しており、地域の木材を地域で消費することができる。

町内循環型森林経営を目指し、様々な取組を行っています。美幌峠からは、町域を一望することができ、雄大な景観を呈しています。



#### ■担当者連絡先

後藤秀人 TEL: 0152-73-1111

EMAIL: koutrinm@town.bihoro.hokkaido.jp

～下川町役場周辺地域熱供給システムバイオマスエネルギー活用プロジェクト～

低炭素社会の構築を目指し、役場庁舎、消防署、公民館、総合福祉センターにおいて、一つの木質ボイラーから熱を供給する地域熱供給システム施設を導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めています。

プロジェクトの実施場所	北海道上川郡下川町
削減量	(2010.11~2013.3) 437 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	387 t-CO <sub>2</sub> (2015年2月)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会(足寄町、下川町、滝上町、美幌町)では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組みを進めています。

本プロジェクトで使用する木質くずは、下川町内で発生する林地残材、林道支障木等をはじめ、河川支障木等(剪定木、風倒木)なども活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、企業や自治体の廃棄物処理に係る排出をオフセットするために使用することで、CSR、企業イメージの向上が期待されます。

#### 【下川町の概要】

北海道の北部に位置した農林業を基幹産業とした町です。人口は約3,700人。町の面積の約9割が森林となっています。自然豊かな町です。平成20年(2008年)には、国の「環境モデル都市」として認定を受けており、豊かな森林資源を活用して、低炭素社会構築に向け、様々な取組を行っています。町の代表的なイベントである

「アイスキャンドルフェスティバル」では、町中に3,000個のキャンドルが灯り、幻想的な雰囲気を演出しており、町の冬の風物詩となっています。



地域熱供給施設から役場、公民館、消防、総合福祉センターへ熱供給

#### ■担当者連絡先

樋口 知志 TEL: 01655-4-2511

EMAIL: syoukou@town.shimokawa.hokkaido.jp

URL: <http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/>

廃食用油を回収し、配達車両燃料へ転換再利用することで、二酸化炭素の削減と組合員さん自らが環境問題へ参加することを体感して頂く、両方の目的を持っています。

プロジェクトの実施場所	北海道全域
削減量(予測)	—
在庫量	—
1t-CO2あたりの希望単価	—

コープさっぽろでは組合員の家庭から集めた廃食用油、各店舗の店頭で回収している廃食用油を既存の商品流通網の帰り便(静脈物流)を使って回収し、コープさっぽろのエコセンターへ集めています。これらをBDFとして燃料化し、コープさっぽろの商品宅配サービス(トドック)のトラック燃料として軽油に代替し使用しています。このことによって従来、各家庭から廃棄されていた廃食用油分をBDF燃料化し、CO2削減を図ることを実現しました。また、自ら集めた廃食用油が、トラックの燃料として再利用されていることを体感することによって、組合員の環境問題への意識を高めることも目的としています。



担当者連絡先:  
生活協同組合コープさっぽろ 担当:鈴木  
TEL:011-671-6620 HP: <http://www.coop-sapporo.or.jp/>

## 合同会社北海道新エネルギー事業組合

登録番号: JC0003

ヒートポンプを利用したエコアグリハウスにおける温室効果ガス排出削減事業

本事業は、ビニールハウスの暖房として利用される標準的な灯油焚温風暖房機ではなく、ヒートポンプをベースとした灯油焚温風暖房機との併用にすることで、灯油使用量並びに温室効果ガス排出量を削減するものです。

プロジェクトの実施場所	北海道標津郡中標津町
削減量(予測)	年間 45 t-CO2
在庫量	—
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

わたしたちは、平成23年2月より、中標津町開陽地区にヒートポンプを活用したビニールハウスによる水耕栽培を実施しています。

施設の実施規模は、ビニールハウス三棟で成り立ち、一棟当たりのサイズは、間口10.8m×奥行92m×軒高3mによる高断熱複層ビニールにより、室内の保温効果を高め、ヒートポンプを利用して、灯油ボイラーの利用を半減させ、省エネ化及びCO2排出量を削減できます。ヒートポンプを活用した水耕栽培は、将来的にも可能性があり、中標津町における新しい農業ビジネスとして新産業の創出を図り、さらに、通年栽培が可能で軽易な作業であることから、高齢者や障害者を含む雇用の創出により、地域の活性化を目指します。

近年は、観光向け一般公開、教育研修として活用した例もあり、土臭くなくクセのない食べやすい野菜として注目を集めています。



■担当者連絡先 寺端祐介

TEL:0153-73-2050 EMAIL:[info@hokkaido-newene.co.jp](mailto:info@hokkaido-newene.co.jp)

本事業では、生ごみ等の有機性廃棄物を堆肥化することによって埋め立て処理量を減らし、メタン等の温室効果ガスの排出削減を行っており、具体的には、家庭などで発生する「生ごみ」、野菜選果場で発生する「野菜残さ」、浄化センターで発生する「下水汚泥」、家庭などで発生する「剪定枝」を埋め立て処理から堆肥化処理に変更することによって、温室効果ガスの排出量を削減しています。

プロジェクトの実施場所	北海道士別市
削減量(予測)	2014~2020年度 計 489 t-CO <sub>2</sub>
在庫量	— (2015年2月時点)
1t-CO <sub>2</sub> あたりの希望単価	要相談

士別市は、地域内で未利用となっていた生ごみなどのバイオマス資源を地域内で効率的に利用するため、バイオマス資源堆肥化施設を整備し、市民の理解、協力のもと、環境負荷の低減と循環型社会の構築に取り組んでいます。

また、本事業で製造した堆肥は、良質な堆肥として農地や家庭菜園などの「土づくり」に利用されており、バイオマス資源の循環利用により温室効果ガス排出量の削減を行っております。



バイオマスを利用した堆肥を2種類製造し、市内で販売しています。

- 名称: キッチンりぼん(生ごみ、野菜残さを原料)
- 名称: エコみち君(下水汚泥を原料)



■ 担当者連絡先 士別市経済部畜産林務課  
TEL: 0165-23-3121  
E-MAIL: chikurinka@city.shibetsu.lg.jp